デジタルとアナログの融合を。

第31回コミュニティ交流会

3月4日（火）、恒例の竹橋コミュニティスクエア交流会が開催され、43社161名が参加し盛り上がりを見せた。

第一部では『MACワールド』『MAC LIFE』の創刊編集長で、㈱クリエイションの代表取締役を務める高木利弘氏が講演「デジタル時代の印刷事業」と題して、現在のIT技術や流行などを交えながら、印刷業界の今後の在り方を熱演した。「顧客が求めているものは何か。それを見つけだして提供するのは、当然印刷業界でも求められる」（詳細は下段。）

続いて、㈱メディアテクノロジージャパンの技術セミナーを経て、㈱SIMCの栗田社長が期初となる2月度の目標達成を報告。今期は顧客数300社、売上4億円を目指す。また、「コミュニティに仕事を入れることも当然だが、コミュニティの活性化等に積極的にチャレンジしていきたい」という。

第二部の懇親会にも引き続き大勢が参加し、「我々も発想の転換をして、印刷物から色々な提案をしてきたい」と瀧本副委員長から、そして松井委員長から「我々も変わっていかないと…。皆さんの知恵と工夫で合理化を考えたい。今後もよろしくお願いします」と、それぞれ挨拶があった。

デジタル時代の印刷事業

印刷とはなにか？　何に印刷するのか？　何を印刷するのか？

MACワールド・MAC LIFE創刊編集長
株式会社クリエイション代表取締役
高木　利弘氏

約500年前、グーテンベルクが金属活字・油性インク・プドウ搾り機を組み合わせて活版印刷技術を実用化するという革命を起こし、聖書を印刷した。「聖書を印刷したというのが重要で、これが宗教革命を生んだ。その後、沢山の知識が本として出版され、産業革命や市民革命に繋がった。つまり、革命が近代歴史の原動力」と高木氏。そして、「IT革命は印刷技術の革命を越えると言われている」と付け加える。

革命は前の革命の否定から始まる。「ひとつはインターネットがあるから、紙に印刷しなくてもいい。もうひとつは、オフィスや家庭用プリンタの普及。だから、印刷業界が厳しい状況にある」。

しかし、デジタル化が進んだことによって紙の印刷が増えているという実態もある。高木氏は「業態によっては、インターネットに持っていかれている状況。だけど、こういう状況は過去にも繰り返されている」と映画とテレビの例を挙げた。

「かつて映画産業が花形の時代があった。フルカラーで、大画面で、迫力のある音響。当時のテレビはモノクロで、小さくて、不鮮明で…。情報発信の中心は映画館だった」が、テレビがカラーになり、一家に1台普及すると状況は一変した。テレビに出来ないような大作もコストが高く、映画館から客足が遠のいた。

ずっと冬の時代が続いたが、最近の日本映画は元気がいい。なぜなら「折り合いを付けた。テレビ、ビデオを含めて映画のチャネルと考えていこう、と。映画で封切りする前に、前のバージョンをテレビで放送する。それから映画館に行く。メディアをクロスする折り合いを付けた」と高木氏は解説する。

そして、「世界市場を意識する。例えば、日本の漫画に代表されるクールジャパンといわれるグローバルな展開」と、「何を伝えたいのか。エンターテイメントとしてのメッセージ性」を加え、「クロスメディア・グローバル・メッセージがキーワード」とした。

では、マスメディアからネットメディアへとシフトが起きている中で、印刷会社はどのように対応したらよいのだろうか。

高木氏は例を挙げる。ある菓子メーカーでカブト虫の幼虫型のチョコをつくったら、とても受けが良かったという。それまでも、おいしいチョコをつくっていたのに売れなかったが、ECサイトでも非常に売れた。「今はどの会社もホームページを持っている。あれが出来る、これが出来ると書いてもダメ。意外性や、あっと驚く何かがあると急激に状況が変わるのがネットメディアの特長。仕事がない、売れない、ではなくて世の中に訴えるものを」と説明。

また、メガネのフレームに印刷が出来る技術を持った印刷会社の例では、フレーム生産の中心が中国になって落ち込んだが、それを携帯電話や家電の印刷に応用したらたちまちヒットしたという。高木氏は「技術を持って、強みを持っていれば違うところに活かせる良い例」と語る。

これまでと違い、「顧客が求めているものは何か見つけだし、それを提供することが印刷業界でも当たり前に要求される」。

そして、「印刷にも触感や質感など、デジタル化出来ないものの良さがある。自社で何が出来る、どんな設備を持っているということではなく、提案していく必要がある」と総括する。

最後に、「印刷って何だろう。何に印刷するんだろう。何を印刷するんだろう。もう一度考えてみてください」と締め括ると、会場からは大きな拍手が送られた。

MACワールド・MAC LIFE等、数々の創刊編集長を務めた高木氏

理路整然とした語り口調で熱演する

高木氏の講演に聴き入る

ブースのかお　Vol.23

株式会社ウイズプリンティング

浦地 晃大

URAJI KOUTA

昭和53年5月9日生まれのB型で、今年30歳。誰に会っても、「お前はB型」と言われます。マイペースで、ワガママ…はい、その通りです（笑）。

だんじり祭りで有名な岸和田の生まれで、去年の2月から東京で暮らしています。皆さんのおかげですっかり慣れました。

これは人に負けないぞ、というのはサバイバル能力ですかね。道具を持って山に放り込まれても、しばらく生きていけます。小さい頃から親が好きで連れて行かれて、川で魚を捕ったり、木の実採ったり、山芋掘ったり…。キャンプと言うよりはサバイバルですね。

職歴は、新聞や郵便配達、肉屋さん、パン屋さん…、興味のあるアルバイトを転々と片っ端からやって、今の会社に入ったのは5年前。最初は製版をやっていて、厳しい先輩の下、ひたすら版を焼いていましたね…。今でも夢に見ます（笑）。

営業になったきっかけは、会社で東京の展開を話しているときに「僕が行きます」って冗談で…。そしたら本当に決まって、本社で半年の営業研修をして東京に来ました。

弊社は中綴じや無線の折り出しが得意なオフ輪屋。特長なのは、A4サイズ2色／2色の32P折り出しが出来ることで、約款関係の仕事などに向いています。他にも、B系も平台もあり、大概は何でも出来ます。

竹橋に来てからは、既存顧客のパイプを太くしていたんですが、それだけでは…。今後は新規開拓にも目を向けて行けたらと思っています。

1人でぽっと出てきて、全然寂しくないのは皆さんのおかげ。こんなに仲が良いところだとは思わなかったです。休憩していると誰かしら声をかけてくれて、つらい話を聞きつつ、自分も愚痴りつつ…（笑）。いつもありがとうございます。

竹橋コミュニティスクエアのメンバーご紹介

3 株式会社システムナム
4 福島カラー印刷株式会社
5 株式会社サンエムカラー
6 株式会社やまとカーボン社
7 株式会社日相印刷
8 株式会社三幸堂
9 株式会社三光
10 70 三協タックラベル株式会社
11 石本紙工株式会社
12 48 敷島印刷株式会社
13 マコト印刷株式会社
14 白山印刷株式会社
16 株式会社光陽社
17 株式会社ジャパンアート
18 株式会社ウイズプリンティング
19 ユニオン印刷株式会社
20 株式会社渋谷文泉閣
21 ハート株式会社
22 大阪シーリング印刷株式会社
24 株式会社サンセイ
29 北斗印刷株式会社
31 株式会社梅垣ラベルサービス
32 野崎工業株式会社／葉織華印務有限公司
33 株式会社イーアンドイー
34 株式会社イマイチ
35 佐川印刷株式会社
36 高山印刷株式会社
37 大享印刷株式会社
40 凸版メディア株式会社
41 新日本カレンダー株式会社 福州信日華印刷有限公司
44 旭紙工株式会社
45 株式会社あるす
46 ビーエムシー株式会社
49 中部印刷株式会社
51 滝川印刷株式会社
53 株式会社ダイム
54 株式会社ムトウユニパック
55 58 冨士印刷株式会社
56 株式会社セイコー紙業
57 北海道磁気印刷株式会社
59 彩光印刷株式会社
60 宮下印刷株式会社
61 大同紙工印刷株式会社
62 65 69 末広印刷株式会社
63 株式会社図書印刷同朋舎
64 有限会社プロセスレボ
66 株式会社エスケイワード
67 株式会社大和
68 平林印刷株式会社

26 岩橋印刷株式会社
代表取締役　中川 恒之
印刷業（オフセット印刷・グラビア印刷・フォーム印刷・パッケージ・包装紙・サイン広告・ウェブ制作）
〒063-8580 北海道札幌市西区西町南18-1-34
Tel 011-669-2500

（ナンバー、順序はブース番号順・敬称略／4月9日現在）

「和」をもって、共存共栄を目指す情報紙。
Takebashi Community Press
竹橋コミュニティプレス
April 2008
33号
平成20年4月9日発行
発行人／犬養 俊輔
発行／株式会社 帆風
編集／株式会社 帆風　ODC小原デザインセンター
スタッフ／佐藤 宏幸・横田 みえこ・井口 健太郎
画像補正／山田豊
CTP印刷／竹橋プリンティングセンター

ADVERTISING
グラフィックデザイン・パッケージデザインをお受けします

■350ml ペットボトル　■ギフト用パッケージ　■SPツール　■250ml 缶缶　■ギフト用パッケージ　■商品カタログ　■ポスター
株式会社セイコー紙業 デザインセンター　クリエイティブ コミュニケーションズ キッズ
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビルB4　No.56
Tel.03-6267-7056　Fax.03-6267-7126

オリジナル 丸うちわ　香る丸うちわもあります
サイズ21cmΦ（4/4色 10000枚）
@20円～
オリジナル うちわ
通常・コンパクト・ミドルサイズ（4/1色 500本）
39,800円～
まだまだありますいろんなグッズ!!
オリジナル販促専門店
販促花子
販促花子　検索
http://www.hi-ad.jp
運営：平林印刷株式会社

地元福島県に密着したテーマ・情報を発信中!
折込情報紙「得プレふくしま」「まいみん彩」を毎月1回ご家庭へお届けしています。
チョットの"お得"の積み重ねが生活を楽しくする!!
得プレふくしま　TOKU PRE FUKUSHIMA　県北版
●毎月2回発行（最終土曜日）　●折込地域／福島市・伊達市・相馬市 他
●発行部数／82,550部　●折込新聞／毎日新聞・福島民報
しあわせ発見、コミュニケーション紙
「まいみん彩」
毎日民報新聞販売店が購読者の皆様へお届けしています。
●毎月第2日曜日発行　●折込地域／郡山市内
●発行部数／50,000部　●折込新聞／毎日新聞・福島民報
お問い合せはコチラ▶　福島カラー印刷　検索　www.f-cp.com
福島カラー印刷株式会社
●本　社／〒960-2101　福島市さくら三丁目2-7　TEL.024-594-2188　FAX.024-594-2189
●郡山営業所／〒963-0724　郡山市田村町上行合字北川田26-3　TEL.024-956-2113　FAX.024-956-2782
●東京営業所／〒100-0003　東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビルB4F 竹橋プリンティングセンター内　TEL.03-6267-7004　FAX.03-6267-7074